



+ Re_JIRO

木村二郎 回顧展

2009年9月5日(土) - 11月30日(月)

http://www.tsugane.jp/re_jiro/

北杜市立須玉歴史資料館

開館時間: 9:30-17:00 休館日: 水曜日 臨時休館日: 9月17日(木)

入場料: 一般200円, 高中小学生100円, 以下無料

〒407-0322 山梨県北杜市須玉町下津金2963

お問い合わせ: 北杜市立須玉歴史資料館 tel.0551-20-7100 <http://www.tsugane.jp/meiji/>

同時開催

ギャラリートラックス / グループ展同時期間中 <http://www.eps4.comlink.ne.jp/~trax/frame.html>

峠のギャラリー歩"ら里 / 木村二郎回顧展 9月5日(土) - 14日(月) <http://www.yin.or.jp/user/burari/index.html>

主催: 北杜市立須玉歴史資料館 NPO法人文化資源活用協会 ギャラリートラックス

後援: 北杜市教育委員会 大正館 おいしい学校 山梨日日新聞 テレビ山梨 NHK甲府 毎日新聞甲府 ハケ岳ジャーナル

助成: 財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

協力: ギャラリーガランス ぼんてんや 山梨銘醸株式会社 Special thanks: 有賀亮右 +Re_JIRO project

没後5年目を迎えた伝説のデザイナー・アーティスト/JIRO KIMURA

国内外のファンの心を惹き付けるJIRO

1947年大阪生まれ。大阪でインテリアデザイナーとして活躍後、バブル期を経て煩雑な生活から離れ、ハヶ岳南麓（山梨県北杜市）築130年の農家に住み始める。以来、オリジナル作品を手がけ、オブジェ、家具、空間デザイン、映像を発表。近隣の廃屋から出た古材や梁、農具など素材から生み出したこれまでにない巧みでモダンな家具は、「古材家具作家・先駆者」として注目され、雑誌「ELLE DECO」「別冊太陽」など多数のメディアに取り上げられた。その才能を惜しまれ、2004年2月死去。しかし、没後5年を迎えるいまなお、若い世代が、彼の作品を見にハヶ岳南麓を訪れる。JIROの作品が、次世代の若者の心を引き付けるのは、なぜか？

「JIROの才能については、私が一番理解している」

1993年ギャラリートラックスをオープン。毎回見たこともない斬新な手法によるJIROの展示空間プロデュースは話題を浴び、日本をはじめ世界のアーティストの発信基地となった。いまでも当時のことは伝説のように語られる。一方、ハヶ岳の自然の中で、歴史、伝統、文化、農具や民具の機能美に見せられ、彼の創作意欲は刺激された。畑の隅で拾った破片が4000年以上前の縄文土器であったことをきっかけに土器拾いにも没頭した。時間を越えた普遍的なフォルムに深い敬意を感じその力強い素形に触発され、JIROの感性がアーティストックな表現作品を生み出した。

「JIROの才能については、私が一番理解している」。そう自負する関係者が多いのは、古材家具作家では取まらない彼の自然的万物創造に至る天才的感性そのものに、誰もが驚き魅了されていたから。

山梨県ハヶ岳南麓へ「JIROをめぐる探索の旅」へ

初期のオブジェ作品を始め、家具、インテリア、映像作品、JIROの素顔や才能が見られる資料を展示。設計店舗に立ち寄ることもできる。本企画にあたっては著名なデザイナーやアーティスト、地元住民、コレクターなど関係者へのヒアリングは半年を越え、ボランティアな有志により関係資料を整理し、+Re_JIROプロジェクトを立ち上げた。JIROの言葉や散歩道、ゆかりの場所などを通じて、JIROの記憶や記録を共有する旅が始まった。5年を経て初めて、彼がいつも眺めていた視点に私達も立つことができるのではないだろうか。

「愚かなルールに屈しない」

無口に煙草を吹かし時にユーモアを交え誰にも優しく微笑んだJIROが残した言葉は、実は少ない。しかし現代の混沌とした時代に、真摯に生きようとする人への明快なヒントとなるであろう。

木村二郎 / JIRO KIMURA

デザイナー・アーティスト。1993年よりギャラリートラックス主宰。2004年2月死去。
主なデザイン店舗／ギャラリーせい（東京）、ギャラリー歩”ら里、レストラン臺眠（山梨）他。
個展／OZON（00）、JMギャラリー（1995、99、00、04）他。

会場は、明治8年創建の木造校舎/北杜市立須玉歴史資料館。
豊嶋秀樹+ギャラリートラックスによる展示プロデュースで、旧木造校舎がJIRO's worksとともに生まれ変わる。



photograph: Katsumi Omori (furniture), Minka Suzuki (portrait)

トークショー

2009年9月6日[日] 13:30開場 14:00開演

ゲスト: アンダース・エドストローム (写真家・映像作家)

角田純 (アーティスト・デザイナー)

豊嶋秀樹 (アーティスト・空間プロデューサー)

会場: 北杜市立須玉歴史資料館

入場: 800円 (定員80名) 要予約 (Fax. 0551-20-7105)

オープニングパーティー

2009年9月6日[日] 17:00-

会場: 北杜市立須玉歴史資料館

ブルースハーモニカ/波木克己LIVEコンサート

2009年10月10日[土] 16:00開場 16:30開演

会場: 北杜市立須玉歴史資料館

入場: 要予約/前売1,200円 (当日1,500円)

販売: 2009年9月5日[土] ~

アンダース・エドストローム Anders Edstrom

写真家・映像作家。1966年スウェーデン生まれ。ファッションデザイナー・マルタン・マルジェラとのコラボレーション、アート雑誌『Purple』の創刊に関わるなど幅広い活動を続けている。写真集に『spidernets places a crew』『waiting some birds a bus a woman』(steidIMARK / 2004年) などがある。JIRO作品の凄さを海外の目から語る。

角田純 Jun Tsunoda

アーティスト。1960年愛知県生まれ。多摩美術大学卒業。グラフィックデザイナー角田純一として活躍しながら、20年以上にわたってライフワークとして絵を描き続ける。主な個展にGALLERY TRAX (04年)、FOIL GALLERY (08年、09年)、主なグループ展にCultural ties Exhibition Westzone gallery space・ロンドン (00年) など。最新の作品集『Cave』(2009年)。二郎氏とは無二の親友。

豊嶋秀樹 Hideki Toyoshima

1971年大阪生まれ。1993年サンフランシスコ・アート・インスティテュート卒業。2001年チェルシー・カレッジ・オブ・アート・デザイン修了。grafの設立メンバーの一人で、2009年9月以降は gmprojectsとして活動開始。奈良美智とのコラボレーション、YNGの中心的人物でありA to Zprojectを共同企画・制作した。最近では、「夢の饗宴:歴史を彩るメニュー×現代アーティストたち」展(資生堂ギャラリー)、「もうひとつの森へ」展(メルシャン軽井沢美術館)での空間構成、KITA!!Japanese Artists meet Indonesia (インドネシア/国際交流基金)でキュレーターを務めるなど、様々な立場で展覧会をつくっている。今回の「+Re_JIRO」展の展示空間プロデュースを手がける。